

富岡製糸場と養蚕の系市の父養



文化財ミニパンフ

世界文化遺産 平成 26 年 6 月 25 日登録

群馬県の世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」

群馬県の「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、平成 26 年 6 月 25 日、ユネスコの世界遺産に登録されました。この中には、①富岡製糸場、②田島弥平旧宅、③高山社跡、④荒船風穴という 4 件の構成遺産があります。

①富岡製糸場（富岡市）・・・富岡製糸場は、明治 5 年（1872）に明治政府が日本で初めて建設した官営の製糸工場です。フランス人ブリューナが建設しました。但馬からも明治 5 年、出石藩の武士の娘 25 人が研修に行きました。そして、富岡製糸場から帰った娘たちは、明治 11 年に豊岡市日高町久斗、明治 12 年豊岡市但東町赤花に完成した器械製糸場で教婦を務めました。

②田島弥平旧宅（伊勢崎市）・・・田島弥平は、茅葺の養蚕住宅が主流であった時代に、瓦葺住宅でも養蚕を可能にする技術を開発しました。養父市の 3 階建養蚕農家の特徴である越屋根（抜気）と掃き出し窓は、田島弥平が養蚕用に開発した技術で、全国に普及したものです。

③高山社跡（藤岡市）・・・高山長五郎は、明治 16 年に清温育という養蚕方法を開発しました。そして高山社という養蚕学校を作りました。高山社から養父市に 40 人の養蚕教師が派遣されました。その内の 8 名は養父郡役所の養蚕指導員として活躍しました。

④荒船風穴（下仁田町）・・・明治 38 年（1905）、風穴を利用した蚕種（蚕の卵）の冷蔵保存技術が開発されました。これによって 1 年に 1 回であった養蚕が、年に複数回できるようになりました。

群馬県の世界遺産は、建造物としての富岡製糸場だけでなく、日本の養蚕の発展を推進した養蚕技術とそれを発明した功労者を顕彰するものです。富岡製糸場の役割、田島弥平の養蚕農家の改良、高山長五郎の清温育の発明と養蚕教師の育成などがあり、これらは日本の養蚕の発展に多大な功績を残しました。

養父市の養蚕も群馬県との交流で発展しました。農家は、蚕のえさとなる桑を育て、蚕を飼って繭を作り、繭を売ります。この仕事が養蚕です。そして工場に集まった繭を乾燥させ、繭から生糸を作る仕事が製糸です。そして生糸は、神戸港や横浜港から外国に輸出され、日本の主要な輸出品として日本経済を支えました。



写真提供：群馬県

富岡製糸場（群馬県富岡市）



高山社（群馬県藤岡市）



田島弥平旧宅（群馬県伊勢崎市）

日本の養蚕技術をヨーロッパに広めた『養蚕秘録』

『養蚕秘録』にみる群馬県との交流

日本とフランスの関係は上垣守国から始まります。『養蚕秘録』の出版は享和3年(1803)です。富岡製糸場は明治5年(1872)に完成しました。この間に69年間の開きがあります。上垣守国はフランス語版『養蚕秘録』を通じてフランスに日本式の養蚕技術を教えました。ブリュナは、フランス式の技術によって富岡製糸場を建設しました。

①ヨーロッパに広がる『養蚕秘録』

上垣守国は、享和3年(1803)、出石藩の支援をうけて『養蚕秘録』を江戸・京都・大坂で出版しました。これをシーボルトがオランダに持ち帰り、嘉永元年(1848)フランス語に翻訳、パリで出版されました。その後、イタリア語訳がトリノで出版されました。上垣守国の『養蚕秘録』は、日本の養蚕技術をヨーロッパに広めました。

②群馬県伊勢崎市境島村との交流

上垣守国は、明和7年(1770)に境島村に蚕種の買い付けに行きました。そこで養蚕技術を見聞し、蚕種は奥州福島産がよいという助言を得て、福島県伊達市の伏黒村で蚕種を仕入れました。この群馬県伊勢崎市の境島村に田島弥平の住宅があります。

③群馬県高崎市との交流

『養蚕秘録』には、「上州碓氷郡(群馬県高崎市付近)の貧乏な農民が、小さな畑に少しの桑の木をうえて養蚕を始めた。熱心に養蚕を研究し、数十年後には、高崎でも有名な裕福な農家になった」という話を載せています。この人は、おそらく上垣守国の養蚕研究仲間です。そして挿絵の左上には、「今年より蚕はじめね、小百姓(今年から蚕飼いを始めた小百姓、がんばって)」という与謝蕪村の俳句があります。

養蚕に生涯を捧げた志

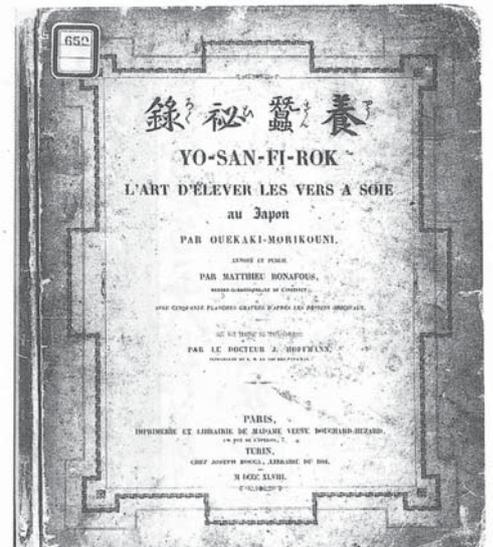
上垣守国の『養蚕秘録』は、明治30年(1897)に創立された兵庫県立蚕業学校(八鹿高等学校・但馬農業高等学校の前身となる学校)の教科書としても使われました。『養蚕秘録』は、発刊から100年間も日本の養蚕技術書として利用されました。

上垣守国は、群馬県や福島県などで多くの養蚕家と養蚕技術の向上のために交流しました。『養蚕秘録』には、奥州流(福島県)・関東辺(群馬県)・信州流(長野県)・江州流(滋賀県)・但馬丹波丹後(北近畿)の養蚕方法が挿図として描かれています。上垣守国は、現地に行って養蚕技術を習得しました。

上垣守国が『養蚕秘録』を出版した目的は、生涯をかけて研究した養蚕技術を世の中に広め、貧しい農民の暮らしを養蚕によって豊かにすることでした。上垣守国の志は、田島弥平や高山長五郎に受け継がれ、『養蚕秘録』は日本における近代養蚕業の基礎となりました。



上垣守国養蚕記念館(蔵垣)



フランス語版の養蚕秘録



「養蚕秘録」上州碓氷郡の小百姓



「養蚕秘録」上垣守国の講義



「養蚕秘録」関東の養蚕

但馬の養蚕と製糸にみる近代化産業遺産

養父市は西日本の養蚕中心地域

東日本の養蚕や製糸の中心地域は、世界遺産となった群馬県です。そして西日本の養蚕の中心地域が北近畿や養父市です。綾部市に本社を置いたグンゼ株式会社は、日高・八鹿・養父・梁瀬・福知山などに大規模な製糸工場を作り、日本を代表する企業となりました。

①但馬の製糸場

養父市大屋町和田（古屋）の小倉寛一郎は、明治14年、12馬力のボイラーを海軍省横須賀造船所（後の横須賀海軍工廠）で製造し、器械式の盛業製糸場を始めました。日本国内でボイラーが他では作れません。明治38年、養父郡内21、美方郡・城崎郡・出石郡各6、朝来郡12の製糸場がありました。これが、大正3年（1914）に郡製糸株式会社八鹿工場、大正7年に養父工場などに統合されました。

②養蚕技術の改良

江戸時代後期、大屋町糸原村の正垣半兵衛は上垣守国の感化をうけて28年間も奥州の蚕種を買い付けて養蚕の振興に尽力しました。明治時代中期、群馬県出身の原当策は、竹製の平らなカゴと藁で作ったコモを棚に置く群馬式飼育方法の普及に努め、八鹿町八木で生涯を閉じました。養父市の養蚕は群馬方式です。

③但馬の養蚕学校

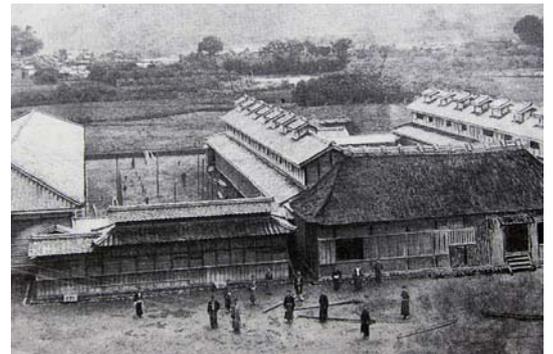
明治30年、兵庫県立簡易蚕業学校が養父市八鹿町に建設されました。全国でも3番目に作られた養蚕学校です。2年後には兵庫県立蚕業学校となりました。学校内には、明治40年に神戸測候所八鹿観測所、明治41年に兵庫県原蚕種試験場が設置されました。また、第2代校長中村鼎は、前職が鳥取県簡易養蚕学校長、後職が茨城県農事試験場長です。養蚕や農業の専門的な教育者が学校長を務めました。卒業生は、兵庫県各地で養蚕教師として活躍しました。学校は、現在の県立八鹿高等学校や県立但馬農業高等学校に受け継がれています。



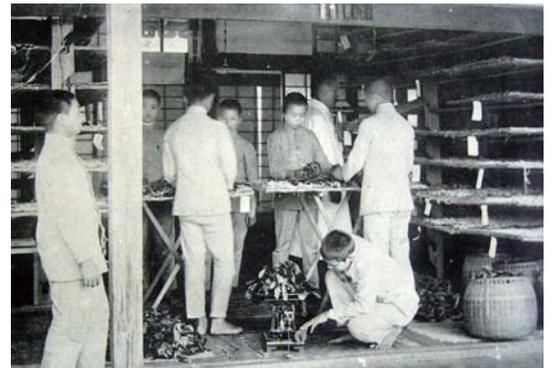
グンゼ株式会社旧本社屋（綾部市）



グンゼ株式会社八鹿工場



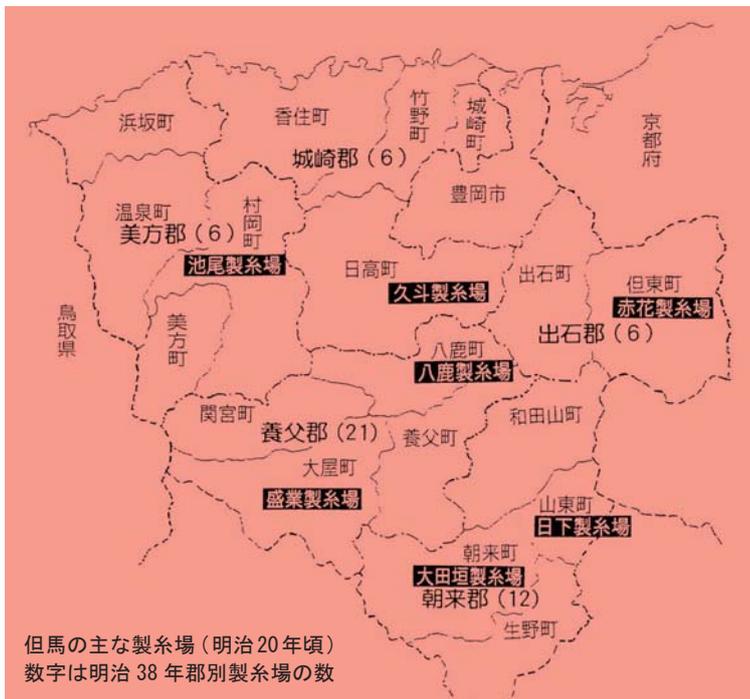
八鹿の県立蚕業学校（大正期）



県立蚕業学校の実習（大正6年）



藏垣かいこの里での糸繰り（座繰製糸）の様子



群馬県の世界遺産と養父市

平成 26 年 6 月 25 日、群馬県の養蚕と製糸にかかわる産業遺産がユネスコの会議において世界遺産に登録されました。近代化産業遺産では日本初、製糸場を世界的に発展させたフランスとの技術交流、さらには日本の養蚕技術がもつ世界的な価値が改めて高く評価されました。

群馬県と兵庫県養父市では、200 年以上も昔から養蚕技術の交流がありました。その人物が、養父市大屋町で生涯を過ごした上垣守国です。上垣守国は養蚕の技術改良のために、福島県伊達市、群馬県伊勢崎市や富岡市などを訪問し、養蚕技術の交流と発展に努めました。明治時代になると群馬県の高山社（養蚕学校）の卒業生 40 人が養父市へ養蚕の指導に訪れています。

全国各地で、養蚕や絹を使った町おこしが行われています。福島県、群馬県、長野県、京都府、横浜市、綾部市、養父市などです。群馬県の世界遺産登録は、全国で養蚕を顕彰する関係者にとって、大変大きな激励となります。上垣守国養蚕記念館で行っている但馬の養蚕は群馬方式です。養父市の養蚕や養蚕技術を受け継ぐ市民も世界遺産の継承者です。養蚕は受け継ぐ人がいて初めて見学できる世界遺産です。

養父市にある 3 階建養蚕農家

3 階建養蚕農家とは、養父市を中心とする但馬地方にある養蚕専用の建築様式をもつ 3 階建の農家建築のことです。外壁の窓が 3 層構造で、窓は階高一杯の高さをもつ掃き出し窓です。換気装置の抜気（バッキ）をもち、2 階・3 階は外気から蚕を守るために大壁（外面の柱を壁土で覆って、壁面に柱を見せない構造）を作っています。3 階建の中には、4 層構造のものも多くあります。全国的にみても、養父市以外に 3 階建養蚕農家は、ほとんどありません。

世界遺産である岐阜県白川郷の合掌造りは、明治時代前半、養蚕を効果的に行うために茅葺の農家住宅が 3 層や 4 層へと高層化したものです。養父市の 3 階建は、明治時代中頃以後、瓦葺の農家住宅が 3 層や 4 層へと高層化したものです。両者の建築様式には、養蚕を通じて密接な関係があります。

平成 18 年の調査で、養父市内には、瓦葺の 3 階建養蚕農家が 495 棟あります。大杉、筏、若杉、畑などでは、現在も 3 階建の住宅が集落景観となって受け継がれています。全国的には、群馬県六合村赤岩地区で数棟知られる程度です。昭和 10 年（1935）、河野正直は、養父郡の 3 階建の養蚕農家を調査し、熊次村 51 棟、関宮村 129 棟、広谷村 19 棟、大屋谷 580 棟、建屋村 14 棟、合計 793 棟を報告しています。



富岡製糸場（写真提供：群馬県）



高山社跡蚕室（写真提供：群馬県）

上垣守国（うえがきもりくに）

宝暦 3 年 - 文化 5 年（1753-1808）養父市大屋町藏垣生まれ。江戸時代後期の養蚕研究者。福島県伊達市伏黒村で蚕種を仕入れ、大屋の蚕の原種とする。天明 3 年（1783）藏垣村の庄屋となる。享和 3 年（1803）『養蚕秘録』を出版。文化 12 年（1829）シーボルトが『養蚕秘録』をオランダに持ち帰り、嘉永元年（1848）、フランス政府がパリで『養蚕秘録』をフランス語で出版、後にトリノでイタリア語訳で出版、日本文化輸出の第 1 号と言われる。『養蚕秘録』は日本の農業技術書として 100 年間にわたって利用され、日本の近代養蚕業の基礎を築いた。



小学生の養蚕見学（かいこの里交流施設）



3 階建養蚕農家（大杉）



3 階建養蚕農家（筏）